



サンガイ・ジウネ・コラギ (共生のために)

香川県高松市立鶴尾中学校

担当教科：英語

山地 京子

◆実践教科：道徳・総合 ◆時間数：3時間 ◆対象学年：中学2年生 ◆対象人数：40名

ココがすばらしい!

- ・ 学校生活 (友達関係) から世界の平和まで、身近な問題から世界まで考える授業へもっていったことが素晴らしい
- ・ 「支援」という視点ではなく「共生」という視点での実践が良かった
- ・ 生徒達に人型の紙にメッセージを書いてもらい、その人型の手と手をつなぐ形で掲示し、「共生」や「つながり」を意識させる工夫がされていて良かった

カリキュラム

◆実践の目的

- ・ 諸外国の人々や文化に対する関心や理解を深め、偏見や固定観念にとらわれないものの見方を学ぶ。
- ・ 世界の中の日本に生きる自分を様々な角度から見つめられる広い視野を育てる。
- ・ 学ぶことの意義をとらえなおすと共に、他人の役に立とうとする意識を養う。

授業の構成

人権総合学習の時間を中心に、ネパールの学習を通して国際理解教育を行った。

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ネパールを知ろう	ネパールについてのクイズに答えよう ・ 班対抗で10問程度のクイズに答えることを通してネパールの人々や文化について知る ・ ネパールの子どもの生活から自分の生活を振り返る	・ パワーポイント ・ 具体物(民族衣装・音楽・お菓子・旗・アンモナイト・ミサンガなど) ・ クイズ回答用紙 ・ ワークシート
2	「幸せ」って、「学ぶこと」って何だろう	①自分の生活を考える ・ 幸せとは何だろう ・ 学ぶことはどんな意味を持つのだろう ②スニータの生活から自分の生活について見つめ直す	・ DVD「世界がもし100人の村だったら2」 ・ 資料1 ・ ワークシート
3	世界の人々の幸せのために自分は何ができるだろう	国際協力について考えよう ①サンガイ・ジウネ・コラギとはどういう意味なのだろう ②世界の人々の幸せを願うことと、自分にできることは何だろう	・ 「わが愛はヒマラヤのふもとへ」 ・ ワークシート

授業の詳細

1 限目 「ネパールを知ろう」

パワーポイントの写真を見せながら、ネパールについてのクイズに答える活動を行った。稲田の広がるタイ(経由地)と山間部に村が点在するネパールとを対比させたり、生徒の日常と雲を見下ろす高地での生活との違いを見つけたりさせながら、ネパールの地理的理解から導入した。宗教や食事、民族衣装、音楽なども盛り込みながら、生徒と同年代の子ども達の生活をカギとして日常について知ることをテーマとした。

生徒の反応

班対抗のゲーム形式であり、賞品(ネパールからのお土産を順位ごとに変えた)もあったことで、生徒は写真に集中し、興味をもちながら協力して学習に取り組むことができた。



授業風景

資料（クイズの問題と回答の例）

Q4 バスに駆けよる子どもたち。
身近な情景と違う点は？



答：

- ①高地（富士山5合目程度）なので、気圧の関係でポテトチップスの袋がパンパンである
- ②ミサガのようなお守りを首につけている
- ③子どもが学校に行かず働いている
学校に行ける子どもの割合は、小学校83.5%、中学校42.9%、高校25.9%(2005)であり、家族のために働くのは当たり前。

Q7 この建物は何？



答：学校

約60人の生徒が、このトタンで作られた壁もない所で学んでいる。高学年は机で、低学年はムシロに座り、膝の上に紙を置いて自分の名前を英語で書く練習をしていた。生徒たちは大きな声で発音しながら、元気いっぱい勉強していた。



Q8 Shitaちゃん（小5）の生活
ア～ウの時間は何をしている？



午 前		放課後～	
6:00	起床・洗顔・お茶	16:00	ウ
	ア	17:00	
7:00		18:00	ア
	イ	19:00	イ
8:00	食事		食事
9:00	ウ	20:00	勉強 ↓
10:00		21:00	就寝
13:00	小学校		
14:00			



答 ア 草刈り

朝夕1時間～1時間半ずつ。草はヤ
ギのえさ。
刈っただけでは終わらない。40kg以
上の草を運ぶ。



答 イ
水くみ

片道15分の井戸まで7～8往復。朝夕1
時間ずつ。
学校へも上級生は水持参で登校



答 ウ 学校まで片道1時間半歩く

Q11 Sharmila Danuwar シャルミラ・ダヌワール (15歳)は

なぜ、小学校に行くの？



答：小学生にボランティアティーチャーとして勉
強を教えに行っている。

サルミラは将来教師になりたいと思っている。教
師の数も十分ではなかったため、コミュニティの
ために、自分にできることを行動にうつしている。

※ネパールの識字率は、男性50.3%・女性31.4%
(2004年)

ネパールはどんな国でしたか？〈生徒の反応〉から

Q1「どうにかしたい」と感じたのは？

- 水（・水くみの大変さとかかる時間の長さ ・外の井戸でなくお風呂がほしいと思う ・水道の水を
きれいに ・井戸を増やす）
- 電気（停電） トイレ 平均寿命の低さ（50代） 識字率の低さ 教師の数が少ない
- 学校（・子どもがみんな学校に行けるように ・もっと近くに ・コンクリートで補強）
- 服が汚れているので服を送りたい

Q2「すごいなあ」「いいことだ」「見習いたいなあ」と感じたのは

- いろいろなことを自分でできて、子どもまで物を売ったり働いたりして、働く厳しさを分かっているのがす
ごいと思った
- 運動神経がいい（ダンス・バック転・木登り）
- 中3の子が小学生に勉強を教えに行くなど、他人のために自分にできることをしていること
- 勉強を自分からやっていること
- 「好きなことは？」と聞かれて、勉強と答えるなんてすごい
- 小学校から英語があるのはいいなと思った
- ネパールでの生活は、日本に比べればいっぱい悩みがあるはずなのに、歓迎してくれたり、プレゼントをく
れたり、声をかけてくれたり、すごい親切にしているところ

Q3 本時の感想

- 私たちは学校に行くのを当たり前だと思っていたが、本当は感謝しなければならないんだなと思いました。勉強を熱心にしていてすごいと思った。
- 宗教心が豊かなこと、民族も言葉も異なること、山が多いこと…クイズを通していろんなことを楽しく学ぶことができました。たまには家の手伝いをします！
- 文句も言わず家族のために働いている。高い木に登ったり、草や水を運んだり、農作業や鍋磨きをしたり、子どもなのに仕事をしているのがすごいと思った。でも子どもは勉強をするべきだと思う。
- ネパールの子供達達は自分がしなければならないから仕事とかもやっている。物が売れない日だってあつてつらいこともあると思うけどがんばっているのがすごいと思った。ほくもネパールの人たちみたいに毎日がんばっていきたい。
- ネパールは小さくて裕福とは言えないのに心の大きさはどこの国にも負けてない。
- 日本と生活は違っても、心が通じ合うのは嬉しい。
- 自分と年齢の変わらない子供達の様子を見て、ネパールの国の雰囲気や生活の違いが見えてくる感じがした。いろんなものを見て驚いているうちに、あっという間に時間が過ぎ、楽しかった。
- 先生が楽しそうだったから私もいつか行ってみたいと思った。

〈所感〉

生徒の興味づけとしては成功だったと思うが、あまりにも多くのことを1時間で取り入れたので時間が足りなかった。2時間扱いにして、もう1時間子供達の生活についてじっくりと考えさせたかったが時間がとれなかった。

2 限目 「幸せ」って、「学ぶこと」ってなんだろう？

生徒自身の生活についての意識を自由に発表させた（Q1・Q2）後、「世界がもし100人の村だったら2」のDVD（約20分）を見せ、ネパールの少女の生活について考えさせた。自分たちの生活と比較させ、幸せとは何か、学ぶことの持つ意味について対比させた。

Q1 あなたの幸せとは？

- | | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 楽しいことをすること | <input type="radio"/> おいしい物を食べること | <input type="radio"/> 寝るとき |
| <input type="radio"/> 友だちと遊ぶこと | <input type="radio"/> お菓子作りをしているとき | <input type="radio"/> ほしい物が買えたとき |
| <input type="radio"/> 好きな人を思うとき | <input type="radio"/> 甥っこと遊んでいるとき | <input type="radio"/> 部活ができること |
| <input type="radio"/> 部活の仲間と騒いでいるとき | <input type="radio"/> 携帯をいじっているとき | <input type="radio"/> マンガを読んでいるとき |

Q2 あなたにとって学ぶこととはどんなこと？

- | | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="radio"/> 役立つこと | <input type="radio"/> いろんな経験をする | <input type="radio"/> 大事なこと |
| <input type="radio"/> 勉強すること | <input type="radio"/> 教えてもらうこと | <input type="radio"/> 賢くなること |
| <input type="radio"/> めんどくさいこと | <input type="radio"/> 礼儀や物事を教えてもらうこと | <input type="radio"/> おもしろくないこと |
| <input type="radio"/> 将来のためにすること | | |

もし世界が100人の村だったら2 ～死ぬまで働き続ける11歳の少女～

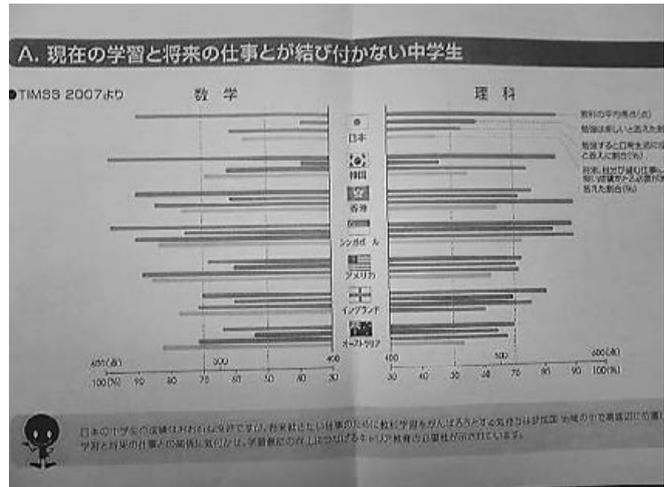
〈DVDのあらすじ〉

ネパールの山岳地に暮らすスニータ（11歳）の1日は午前5時からの茶摘みに始まり、午後11時までの農場主宅の家事に終わる。先祖代々の借金により、生まれながら債務奴隷として働くことを義務づけられながらも、家族とともに一生懸命に働いている。

しかし、家族と離れ、同じ年頃の少女がいる農場主の家で住み込みの家事労働をするうちに、自分とはあまりにも異なる環境に悲哀と割り切れない思いを抱くようになる。



ノンフォーマル教育を受けている子ども達



現在の学習と将来の仕事とが結びつかない中学生 (TIMSS2007)

Q3 スニータの幸せとは何だろう？

- お母さんと一緒に働けること
- 家族と一緒にいること
- 家族と一緒にご飯を食べられること

Q4 スニータにとって「学ぶ」こととは？

- 字を読んだり書けたりできる
- 計算ができる
- 仕事の質が変わる
- 家族と自分のためになる

Q5 スニータの願いとは？

- 学校に行きたい
- 勉強したい
- 自分が自由にできる時間がほしい
- 家族と住める家
- なんで自分だけ…という格差や不公平がなくなること

感想の抜粋

- スニータは代々の借金があって、子どもなのに朝から晩までずっと仕事で大変だった。
みんな同じ子どもなのに、どうしてこんなに差があるんだろう。奴隷なんてありえない。
- 自分は仕事もせず、こうやって何気なく学校に来て、勉強したり給食を食べたりして当たり前だと思っていた。
恵まれていること、幸せなことに気づいた。だから、いろんなことに感謝したい。
- 茶摘みや夜遅くまでの仕事は大変そうなのに、楽しそうに仕事をしていてびっくりした。
私も家族と過ごす時間や、家族そろっての食事を大事にしていきたい。
- 生まれた時から借金に悩んでいて、学校にも行ったことがなくて、毎日が仕事ばかりの人生が悲しいと思った。
世界には、人のために生きたり働いたりする子どもがたくさんいるんだと改めて思った。だけどそんなことを全部我慢して、家族のためにがんばり続けているスニータはすごいと思う。
- 私はスニータのように家族をそんなに大事に思っていなかった。見落としてしまいそうなことが本当の幸せなのかもしれないと気づかされた。今日からはちょっとずつ家族に感謝したい。

<所感>

前時の学習から生徒は、ネパールは物質的には恵まれていなくても、心豊かで、信仰心に篤く伸びやかでいい国だと感じていたようである。しかし、本時の資料では、子どもはみんな学校に行く機会が平等に与えられるなどといった、自分たちが当然の事と思う事柄がそうではないことを知り、ショックを受けたようである。自分たちが恵まれていることを知り、また不公平さに憤りを覚えた感想が多く、子どもたちの純粋さに勇気づけられる思いがした。

3 限目

「世界の人々の幸せのために 自分にできることは何だろう」

読み物資料を用いて、国際協力とはどういうことかを考えさせる

わが愛はヒマラヤのふもとへ 〈 あらすじ 〉

公衆衛生医師としてネパールで医療奉仕を行う岩村医師は、「サンガイ・ジウネ・コラギ」という言葉に出会う。あかの他人の老人を気軽に背負った行きずりの若者たちが、言い残したネパール語である。これは「みんなでいっしょにやろうぜ」という意味のネパール語である。

岩村医師が「ネパールを結核から救おう」と始めた古切手回収や募金に対して、日本からも多くの善意が集まり、BCG、ツベルクリン液、注射器、レントゲン車などを送ることができた。

「マヤちゃんみたいな子どもがそれで助かるんじゃろ」と、その日の売り上げをすべて差し出してくれる日本の行商のおばさんたち。ここでも「サンガイ・ジウネ・コラギ（みんなでいっしょにやろうぜ）」という意識を感じる。

Q1 どんな気持ちで「サンガイ・ジウネ・コラギ」と言ったのだろう？

- ①自分の得になるようにとかじゃなく、人が困っていたら手を貸すのが当たり前
- ②協力しあうことが当然
- ③みんなで幸せになろうという感じ
- ④お互い様

Q2 世界の人々の幸せのために自分にできることは何だろう？

- ①古切手などをリサイクルしたり、募金したりする
- ②身近な人と人との関係をよくして、友だちからその友だちにもいいことは呼びかけてもらえるようにする
- ③困っている人がいるのなら少しでも役に立ちたい
- ④友だちや家族に優しくしたい
- ⑤好き嫌いをなくして食べ物を残さないようにする
- ⑥水を大切に使う
- ⑦知らないふりをせず、助け合うことが大事
- ⑧ペットボトルのふた、プルタブ、バルマークとか身近なものをこつこつ集めて寄付金に変えたい
- ⑨自分でできることは自分でして、他の人から助けを求められたら助けるようになりたい

〈 所 感 〉

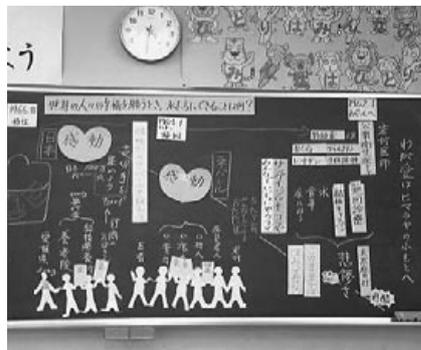
遠い外国の話として他人事のようにとらえたり、中学生の自分にはできないことなどないと思いがちな年頃の生徒たちだが、国際協力について考える機会とすることができた。単に募金するだけで終わらせるのではなく、リサイクルや自分の身近な人たちに対する接し方についても考えることができた。困っている人がいたら助けるのが当然であり、その輪が世界に広がっていくことが国際協力であると考えていることができていた。



授業風景 1



授業風景 2



授業の流れ

成果と課題（全体を通して）

世界の国々についての学習に対して、生徒は私の予想以上に興味・関心をもって取り組んだ。これまでも数々の海外旅行はしてきたのだが、もっと生徒に伝える機会をもつべきであったと感じた。

今回も学年団便りや香川県中学校教育研究会機関誌、地域の文化祭での展示など、学校外への広報活動も心がけたが、積極的にこうした発信の機会をとらえることが大切であると思った。

今後の課題としては、異文化への理解を深めるとともに、いかに国際協力への姿勢や態度へと深めていくかを考えていきたい。



隣保児童館への展示

参考資料

【書籍】

- ・道徳副読本「明日をひらく2『わが愛はヒマラヤのふもとへ』」東京書籍

【映像】

- ・フジテレビ「もし世界が100人の村だったら2」DVD

【ホームページ】

- ・シャプラニール、活動紹介：ネパール情報 <http://www.shaplaneer.org/activity/nepal/info.htm>